

5. コース別学習概要

国際美容師学科

ヘアスタイリストコース

科目名	関係法規	学科名	総合・国際美容師学科
分類	必修	配当年次・学期	2後
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	中澤 貴	実務経験のある教員科目	○:該当 ○
科目概要	美容師になるうという人に必要な関係法規・制度について学び、国家試験に合格しうる法的知識を修得することを目的とする。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	厚生労働大臣認定 美容師国家資格		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	公益社団法人 日本理容美容教育センター 関係法規・制度 美容師法関係法令集 ワークブック		
成績評価の方法 ・基準	授業態度・平常点・出席率等及び期末テストの点数を考慮し評価する。		
履修に当たって の留意点	授業は、一斉授業を基本に実施するが、主体的に学習してほしい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	関係法規ガイダンス	人と社会生活に何故、ルールが必要なのかを学ぶ
第2回目	法制度の概要	法の特徴・形式を学び法治主義の意味と公衆衛生の重要性を理解する
第3回目	衛生法規・制度の概要	衛生法規が具体的にどう運用されているかを理解する
第4回目	衛生法規の概要と美容師法	衛生行政の分類と美容師法の詳細を学ぶ
第5回目	人と施設に関する規定	美容師法の具体的内容を学習する
第6回目	行政処分と罰則	美容師法の違反例とそのペナルティを知る
第7回目	関連法規	美容業界に関連する様々な法制度を知る
第8回目	国家試験対策①	国家試験合格に向けた練習問題①
第9回目	国家試験対策②	国家試験合格に向けた練習問題②
第10回目	国家試験対策③	国家試験合格に向けた練習問題③
第11回目	法制度関係の復習	復習プリント①を使用して学習
第12回目	衛生行政関係の復習	復習プリント②を使用して学習
第13回目	関連法規の復習	関連法規のまとめプリントを使用して学習
第14回目	国家試験対策④	国家試験合格に向けた練習問題④
第15回目	国家試験対策⑤	国家試験合格に向けた練習問題⑤

科目名	化粧品化学	学科名	総合・国際美容師学科
分類	必修	配当年次・学期	1通
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	井上 彰宏	実務経験のある教員科目	○:該当 ○
科目概要	化粧品の品質の特性や規則などを学び、取り扱いと安全性を良く理解し様々な基礎化粧品などの構造と色材、使用方法を学ぶ。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	厚生労働大臣認定 美容師国家資格		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	公益社団法人 日本理容美容教育センター 化粧品化学		
成績評価の方法 ・基準	授業態度・平常点・出席率等及び期末テストの点数を考慮し評価する。		
履修に当たって の留意点	授業は、一斉授業を基本に実施するが、主体的に学習してほしい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	化粧品概論①	化粧品の社会的意義と品質特性
第2回目	化粧品概論②	化粧品の規制
第3回目	化粧品概論③	化粧品の安定性と取り扱い上の注意
第4回目	化粧品概論④	化粧品と安全性
第5回目	化粧品用原料①	化粧品の対象となる人体各部の性状
第6回目	化粧品用原料②	水性原料、油性原料
第7回目	化粧品用原料③	界面活性剤、高分子化合物
第8回目	化粧品用原料④	色材、香料
第9回目	化粧品用原料⑤	その他の配合成分、ネイル・マツエク用材料
第10回目	基礎化粧品①	皮膚清掃用化粧品、化粧水
第11回目	基礎化粧品②	クリーム・乳液、その他の基礎化粧品
第12回目	メイクアップ用化粧品①	メイクアップ用化粧品の種類と剤形
第13回目	メイクアップ用化粧品②	ポイントメイクアップ化粧品
第14回目	頭皮・毛髪用化粧品①	シャンプー剤、スタイリング剤
第15回目	頭皮・毛髪用化粧品②	パーマ剤
第16回目	頭皮・毛髪用化粧品③	ヘアカラー剤
第17回目	頭皮・毛髪用化粧品④	育毛剤
第18回目	芳香製品と特殊化粧品①	芳香製品、特殊化粧品
第19回目	付録①	付録1～7
第20回目	付録②	付録8～13
第21回目	付録③	付録14～20
第22回目	国家試験対策①	国家試験合格に向けた練習問題①②
第23回目	国家試験対策②	国家試験合格に向けた練習問題③④
第24回目	国家試験対策③	国家試験合格に向けた練習問題⑤⑥
第25回目	国家試験対策④	国家試験合格に向けた練習問題⑦⑧
第26回目	国家試験対策⑤	国家試験合格に向けた練習問題⑨⑩
第27回目	国家試験対策⑥	国家試験合格に向けた練習問題⑪⑫
第28回目	国家試験対策⑦	国家試験合格に向けた練習問題⑬⑭
第29回目	国家試験対策⑧	国家試験合格に向けた練習問題⑮⑯
第30回目	国家試験対策⑨	国家試験合格に向けた練習問題⑰⑱

科目名	衛生管理	学科名	総合・国際美容師学科
分類	必修	配当年次・学期	1後
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	森村 健	実務経験のある 教員科目	○:該当
科目概要	美容師は多くの人と接する職業であることから、美容業務上で必要不可欠な衛生知識【公衆衛生・予防保健・環境衛生・感染症】を身に付けることで公衆衛生の向上を図る。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	厚生労働大臣認定 美容師国家資格		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	公益社団法人 日本理容美容教育センター 衛生管理		
成績評価の方法 ・基準	授業態度・平常点・出席率等及び期末テストの点数を考慮し評価する。		
履修に当たって の留意点	授業は、一斉授業を基本に実施するが、主体的に学習してほしい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	公衆衛生の概要①	公衆衛生の意義と課題
第2回目	公衆衛生の概要②	公衆衛生発展の歴史
第3回目	公衆衛生の概要③	保健所と理容美容業
第4回目	保健①	母子保健
第5回目	保健②	成人・高齢者保健
第6回目	感染症の総論①	人と感染症
第7回目	感染症の総論②	感染症の歴史と法律
第8回目	感染症の総論③	感染症の分類
第9回目	感染症の総論④	微生物の種類
第10回目	感染症の総論⑤	微生物の構造・増殖と環境の影響
第11回目	感染症の総論⑥	微生物の病原性と人体の感受性
第12回目	感染症の総論⑦	汚染・感染・発病
第13回目	感染症の総論⑧	免疫と予防接種・感染予防の3原則
第14回目	感染症の各論①	理容・美容と感染症
第15回目	感染症の各論②	主な感染症

科目名	衛生管理	学科名	総合・国際美容師学科
分類	必修	配当年次・学期	2通
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	三輪 明	実務経験のある 教員科目	○:該当 ○
科目概要	サロン施設と設備の法に基づく規則など基本知識と予防接種・消毒法・衛生管理を学ぶ。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	厚生労働大臣認定 美容師国家資格		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	公益社団法人 日本理容美容教育センター 衛生管理		
成績評価の方法 ・基準	授業態度・平常点・出席率等及び期末テストの点数を考慮し評価する。		
履修に当たって の留意点	授業は、一斉授業を基本に実施するが、主体的に学習してほしい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	1年の復習	1年次の学習内容の復習
第2回目	病原体の分類	法律上の分類 感染経路による分類
第3回目	予防接種	定期の予防接種 任意の予防接種 ワクチンの種類
第4回目	感染症予防	感染症予防の3原則について
第5回目	感染症各論①	結核 ジフテリア インフルエンザ
第6回目	感染症各論②	麻疹 百日咳 風疹 急性灰白髄炎(ポリオ)
第7回目	感染症各論③	コレラ 細菌性赤痢 腸管出血性大腸菌感染症(O-157)
第8回目	感染症各論④	B型肝炎 C型肝炎 後天性免疫不全症候群(エイズ) 梅毒
第9回目	感染症各論⑤	ラッサ熱 ペスト
第10回目	消毒法	美容師法施行規則で規定されている消毒法
第11回目	理学的消毒法	紫外線消毒 煮沸消毒 蒸気消毒
第12回目	化学的消毒法①	消毒用エタノール 次亜塩素酸ナトリウム
第13回目	化学的消毒法②	逆性石鹼 両性界面活性剤 グルコン酸クロルヘキシジン
第14回目	消毒薬の濃度計算	消毒薬の希釈方法 濃度計算の仕方
第15回目	まとめ	期末試験に向けてのまとめ
第16回目	前期の復習	前期の復習
第17回目	国家試験対策①	国家試験合格に向けた練習問題①②
第18回目	国家試験対策②	国家試験合格に向けた練習問題③④
第19回目	国家試験対策③	国家試験合格に向けた練習問題⑤⑥
第20回目	国家試験対策④	国家試験合格に向けた練習問題⑦⑧
第21回目	国家試験対策⑤	国家試験合格に向けた練習問題⑨⑩
第22回目	国家試験対策⑥	国家試験合格に向けた練習問題⑪⑫
第23回目	国家試験対策⑦	国家試験合格に向けた練習問題⑬⑭
第24回目	国家試験対策⑧	国家試験合格に向けた練習問題⑮⑯
第25回目	国家試験対策⑨	国家試験合格に向けた練習問題⑰⑱
第26回目	国家試験対策⑩	国家試験合格に向けた練習問題⑲⑳
第27回目	国家試験対策⑪	国家試験合格に向けた練習問題㉑㉒
第28回目	国家試験対策⑫	国家試験合格に向けた練習問題㉓㉔
第29回目	国家試験対策⑬	国家試験合格に向けた練習問題㉕㉖
第30回目	国家試験対策⑭	国家試験合格に向けた練習問題㉗㉘

科目名	保健	学科名	総合・国際美容師学科
分類	必修	配当年次・学期	1通
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	森村 健	実務経験のある教員科目	○:該当
科目概要	美容師として必要な基礎的な人体の構造や仕組みについて学ぶ。 頭部や顔面をメインに業務に携わる美容技術者として必要な解剖学の基礎知識を理解することを目標とする。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	厚生労働大臣認定 美容師国家資格		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	公益社団法人 日本理容美容教育センター 保健		
成績評価の方法 ・基準	授業態度・平常点・出席率等及び期末テストの点数を考慮し評価する。		
履修に当たって の留意点	授業は、一斉授業を基本に実施するが、主体的に学習してほしい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	はじめに	概要
第2回目	頭部、顔部、頸部	人体各部の名称
第3回目	骨格器系①	骨の種類と構造
第4回目	骨格器系②	骨の連結とそのはたらき
第5回目	筋系①	筋の種類とその特徴
第6回目	筋系②	表情筋とそのはたらき
第7回目	神経系①	神経系の成り立ち
第8回目	神経系②	中枢神経と抹消神経
第9回目	感覚器系①	視覚・聴覚
第10回目	感覚器系②	平衡感覚・味覚
第11回目	感覚器系③	嗅覚・皮膚感覚
第12回目	血液・循環器系①	血液のあらまし
第13回目	血液・循環器系②	血液循環の仕組みと経路
第14回目	血液・循環器系③	心臓と血管・リンパ管
第15回目	呼吸器系①	呼吸器系と気道
第16回目	呼吸器系②	肺の仕組みとガス交換
第17回目	消化器系①	消化器系の仕組み
第18回目	消化器系②	消化管のはたらき
第19回目	消化器系③	消化と物質代謝
第20回目	人体の構造復習①	確認テスト
第21回目	人体の構造復習②	まとめと確認テスト
第22回目	皮膚の構造①	皮膚の表面・断面
第23回目	皮膚の構造②	表皮・真皮
第24回目	皮膚の構造③	皮下組織・皮膚の部位差
第25回目	皮膚付属器官の構造①	毛
第26回目	皮膚付属器官の構造②	脂腺
第27回目	皮膚付属器官の構造③	汗腺・爪
第28回目	皮膚の循環器系と神経①	皮膚の血管
第29回目	皮膚の循環器系と神経②	リンパ管と皮膚の神経
第30回目	皮膚の構造復習	まとめ

科目名	保健	学科名	総合・国際美容師学科
分類	必修	配当年次・学期	2通
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	三輪 明	実務経験のある 教員科目	○:該当 ○
科目概要	毛髪・爪、皮膚科学及び人体構造・機能をよく理解し、疾患予防など、保健に必要な手当てを施せるように学ぶ。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	厚生労働大臣認定 美容師国家資格		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	公益社団法人 日本理容美容教育センター 保健		
成績評価の方法 ・基準	授業態度・平常点・出席率等及び期末テストの点数を考慮し評価する。		
履修に当たって の留意点	授業は、一斉授業を基本に実施するが、主体的に学習してほしい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	1年の復習	1年次の学習内容の復習
第2回目	内分泌器系①	脳下垂体 甲状腺 上皮小体
第3回目	内分泌器系②	膵臓 副腎 精巣 卵巣
第4回目	環境と生体	生理的適応 免疫的適応
第5回目	皮膚の構造①	表皮 真皮 皮下組織
第6回目	皮膚の構造②	表皮 真皮 皮下組織
第7回目	皮膚付属器官の構造①	毛 脂腺 汗腺 爪
第8回目	皮膚付属器官の構造②	毛 脂腺 汗腺 爪
第9回目	皮膚付属器官の生理機能①	対外保護作用 体温調節作用
第10回目	皮膚付属器官の生理機能②	知覚作用 分泌排泄作用 吸収作用
第11回目	皮膚付属器官の生理機能③	貯蔵作用 免疫 解毒 排泄作用 ビタミンD形成
第12回目	皮膚と皮膚付属器官の疾患①	発疹 接触皮膚炎 蕁麻疹 熱傷
第13回目	皮膚と皮膚付属器官の疾患②	化膿菌 ウィルスによる皮膚疾患
第14回目	皮膚と皮膚付属器官の疾患③	真菌 衛生害虫による皮膚疾患
第15回目	まとめ	期末試験に向けてのまとめ
第16回目	前期の復習	前期の復習
第17回目	国家試験対策①	国家試験合格に向けた練習問題①②
第18回目	国家試験対策②	国家試験合格に向けた練習問題③④
第19回目	国家試験対策③	国家試験合格に向けた練習問題⑤⑥
第20回目	国家試験対策④	国家試験合格に向けた練習問題⑦⑧
第21回目	国家試験対策⑤	国家試験合格に向けた練習問題⑨⑩
第22回目	国家試験対策⑥	国家試験合格に向けた練習問題⑪⑫
第23回目	国家試験対策⑦	国家試験合格に向けた練習問題⑬⑭
第24回目	国家試験対策⑧	国家試験合格に向けた練習問題⑮⑯
第25回目	国家試験対策⑨	国家試験合格に向けた練習問題⑰⑱
第26回目	国家試験対策⑩	国家試験合格に向けた練習問題⑲⑳
第27回目	国家試験対策⑪	国家試験合格に向けた練習問題㉑㉒
第28回目	国家試験対策⑫	国家試験合格に向けた練習問題㉓㉔
第29回目	国家試験対策⑬	国家試験合格に向けた練習問題㉕㉖
第30回目	国家試験対策⑭	国家試験合格に向けた練習問題㉗㉘

科目名	技術理論	学科名	総合・国際美容師学科
分類	必修	配当年次・学期	1前2コマ・1後1コマ 2通 1コマ
授業時数	150時間	単位数	5単位
授業方法	必修	企業等との連携	○:該当
担当教員	高柳 尚史	実務経験のある 教員科目	○:該当 ○
科目概要	I.技術実習と並行して技術基礎、特殊技術から機械器具の種類・特徴・目的など使用上の注意点を学ぶ。 II.美容にたずさわる手技、エステ・ネイル・メイク・着付け・色彩・トータル的な基礎を施術と並行して学ぶ。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	厚生労働大臣認定 美容師国家資格		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	公益社団法人 日本理容美容教育センター 美容技術理論1 美容技術理論2		
成績評価の方法 ・基準	授業態度・平常点・出席率等及び期末テストの点数を考慮し評価する。		
履修に当たって の留意点	授業は、一斉授業を基本に実施するが、主体的に学習してほしい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第3回目	美容技術理論と美容用具	各部の名称、美容道具(コーム・シザーズなど)
第4回目～第5回目	シャンプー①	シャンプー(目的・サイド・バック)
第6回目～第8回目	シャンプー②・デザイン	リンス、スキャルプトリートメント、幾何学的錯視
第9回目～第10回目	デザイン・ヘアカッティング	デザインの要素、原理・ヘアカッティングの目的、扱い方
第11回目～第13回目	ヘアカッティング②	正しい姿勢、頭部のポイント、スライスと角度
第14回目～第15回目	ヘアカッティング③	ベーシックなカット技法・ベーシックなレザー技法
第16回目～第18回目	パーマメントウェーピング	歴史と構造・分類とパーマ剤・ウェーブ技術
第19回目～第20回目	ヘアセッティング①	オリジナルセット・コームの持ち方・ヘアカラーリング
第21回目～第23回目	ヘアセッティング②	カールの様々な分類・ヘアウェーピング(手順と構成)
第24回目～第25回目	ヘアセッティング③	ローラーカーリング・ブロードライ
第26回目～第28回目	ヘアセッティング④	アイロン・アップスタイル・ウィッグとヘアピース
第29回目～第30回目	ヘアカラーリング⑤	種類とタイプ別・色の基本・染毛剤注意事項、技術手順
第31回目～第33回目	エステティック①	歴史・皮膚の構造・カウンセリング・マッサージ理論
第34回目～第35回目	エステティック②	フェイシャルケア・デコルテ・ボディケア技術
第36回目～第38回目	ネイル①	技術の種類、爪の構造と機能・爪のカットの形状
第39回目～第40回目	ネイル②	カウンセリング・ケア・マニキュア技術の手順
第41回目～第43回目	ネイル③	ペディキュア技術手順・アーティフィシャルネイル
第44回目～第45回目	ネイル④・メイクアップ①	手と足のマッサージ・顔の構造
第46回目～第48回目	メイクアップ②	メイクアップと色彩・皮膚の生理と構造・スキんケア
第49回目～第50回目	メイクアップ③	ベースメイクアップ・アイメイクアップ
第51回目～第53回目	メイクアップ④	アイブロウメイクアップ・まつ毛エクステンション
第54回目～第55回目	日本髪①	各部の名称・種類と特徴・装飾品
第56回目～第58回目	日本髪②	結髪(道具、技術、手入れ)・かつら
第59回目～第60回目	着付け①	礼装・着物と季節・帯
第61回目～第63回目	着付け②	帯・各部の名称・たたみ方・留袖着付技術
第64回目～第65回目	着付け③	振袖着付技術・帯締め、帯揚げの結び方・男子礼装
第66回目～第68回目	着付け④	羽織のひもの結び方・婚礼の着付け・和装花嫁
第69回目～第70回目	着付け⑤	洋装花嫁・国家試験の合格へ向けた問題演習
第71回目～第73回目	国家試験対策①	国家試験の合格へ向けた問題演習①
第74回目～第75回目	国家試験対策②	国家試験の合格へ向けた問題演習②

科目名	美容文化論	学科名	総合・国際美容師学科
分類	必修	配当年次・学期	1通
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	秋山 美絵	実務経験のある 教員科目	○:該当
科目概要	美容に携わる者として我が国における美容の歴史と文化の形成について考えることを目標とする。また主に髪型・服装等の視点から日本の文化、歴史の理解を深める。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	厚生労働大臣認定 美容師国家資格		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	公益社団法人 日本理容美容教育センター 美容文化論		
成績評価の方法 ・基準	授業態度・平常点・出席率等及び期末テストの点数を考慮し評価する。		
履修に当たって の留意点	授業は、一斉授業を基本に実施するが、主体的に学習して欲しい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第2回目	総論	美容文化の概要
第3回目～第4回目	日本の美容業の歴史①	理容業・美容業の発生
第5回目～第6回目	日本の美容業の歴史②	江戸時代の理容業・美容業
第7回目～第8回目	日本の美容業の歴史③	現代の理容美容・日本髪①
第9回目～第10回目	日本の美容業の歴史④	日本髪②
第11回目～第12回目	日本の美容業の歴史⑤	日本髪③
第13回目～第14回目	日本の美容業の歴史⑥	日本髪④
第15回目～第16回目	日本の美容業の歴史⑦	日本髪⑤
第17回目～第18回目	ファッション文化史①	現代Ⅰ～Ⅱ(日本編)
第19回目～第20回目	ファッション文化史②	現代Ⅲ～Ⅳ(日本編)
第21回目～第22回目	ファッション文化史③	現代Ⅰ～Ⅲ(西洋編)
第23回目～第24回目	ファッション文化史④	現代Ⅳ～Ⅶ(西洋編)
第25回目～第26回目	礼装の種類①	和装の礼装
第27回目～第28回目	礼装の種類②	洋装の礼装
第29回目～第30回目	礼装の種類③	まとめ

科目名	運営管理	学科名	総合・国際美容師学科
分類	必修	配当年次・学期	2後
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	高柳 尚史	実務経験のある教員科目	○:該当
科目概要	これから就職して、自分が独立してからサロンを運営して行く時に必要な要素「接客業務そして経営戦略・マーケティング」その後に様々な管理「経営管理・労務管理・健康管理」などの知識が必要になる。スタイリストから経営者になって美容業をして行く中で経営者としての知識・視点・考え方を学び、合わせてわかりやすく解説していく。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	厚生労働大臣認定 美容師国家資格		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	公益社団法人 日本理容美容教育センター 運営管理		
成績評価の方法 ・基準	授業態度・平常点・出席率等及び期末テストの点数を考慮し評価する。		
履修に当たって の留意点	授業は、一斉授業を基本に実施するが、主体的に学習してほしい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	接客① 接客②	現場が求める人、よい社会人であるために お客さまを考える、お客さまに接する
第2回目	接客③ 接客④	接客とは何か、よい接客を考える よい接客者の基本的要素、接客者の心構え
第3回目	接客⑤ 接客⑥	計画の必要性、接客の環境づくり・範囲 接客の流れとポイント①②③④
第4回目	接客⑦ 接客⑧	接客にかかわるトラブル・事故 接客で発生が予想される問題①②・対処
第5回目	経営戦略・マーケティング① 経営戦略・マーケティング②	お客さまに選んでもらうこと、選ばれる難しさ 経営戦略の基礎①②、経営者としての感覚を養う
第6回目	経営戦略・マーケティング③ 経営戦略・マーケティング④	競争の現状・知識、マーケティング・価値つくる・実態 満足な姿、価値を形にしてい、マーケティングミックス
第7回目	経営戦略・マーケティング⑤ 経営戦略・マーケティング⑥	価値の役割、インターフェイス、情報発信、対話 物的要因、インターネット、システム化、海外の美容
第8回目	経営管理① 経営管理②	経営の視点、利益、考え方、立場、難しさ 経営の形態、お金の管理、収支と損益
第9回目	経営管理③ 経営管理④	会計の考え方、コスト管理 税金について、経営者の視点から～まとめ～
第10回目	労務管理① 労務管理②	人という資源の特徴、能力、やる気 給料、待遇、福利厚生
第11回目	労務管理③ 労務管理④	働くものの権利、就業規則、労働規約 キャリアプラン重要性、義務、自己管理
第12回目	健康管理① 健康管理②	健康の大切さ、仕組み、健康診断の歴史 健康診断の限界、美容所の特性
第13回目	健康管理③ 健康管理④	健康に影響を及ぼす様々な危険、作業と体調 生活習慣病、予防と治療
第14回目	健康管理⑤ 健康管理⑥	こころの問題、アレルギーについて 指や手荒れ、足のむくみ、腰痛
第15回目	健康管理⑦ 健康管理⑧	膀胱に違和感、食事のリズム 環境と健康、採光、換気、温度・湿度

科目名	社会常識マナー	学科名	総合・国際美容師学科
分類	必修	配当年次・学期	2前
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	神宮 久香	実務経験のある教員科目	○:該当
科目概要	社会人として必要な基本的マナーを習得するためにサロンでの見だしなみ・言葉遣い・談話対応の仕方・接客・カウンセリングなど、実務に即した内容を、実際にロールプレイングして教科書を基に学ぶ。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	社会人常識マナー検定2級・3級、経済記事読み方検定		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	社会人常識検定テキスト、経済記事読み方検定テキスト		
成績評価の方法 ・基準	平常点・出席率等及び総合評価テストの点数を考慮し評価する。		
履修に当たって の留意点	授業は、一斉授業を基本に実施するが、主体的に学習して欲しい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	サービススタッフの資質	必要とされる要件、従業要件
第2回目	専門知識	サービス知識、従業知識
第3回目	一般知識	社会常識
第4回目	対人技能	人間関係、接遇知識、話し方、服装
第5回目	実務技能	問題処理、環境整備、金品管理、社交業務
第6回目	社会常識①	社会と知識
第7回目	社会常識②	仕事と成果
第8回目	社会常識③	一般知識、ビジネス計算
第9回目	コミュニケーション①	ビジネスコミュニケーション
第10回目	コミュニケーション②	社会人にふさわしい言葉遣い
第11回目	コミュニケーション③	ビジネス文書の活用
第12回目	ビジネスマナー①	職場のマナー
第13回目	ビジネスマナー②	来客応対
第14回目	ビジネスマナー③	電話応対
第15回目	ビジネスマナー④	交際業務、文書類の受け取り

科目名	英会話	学科名	総合・国際美容師学科
分類	必修	配当年次・学期	1通
授業時数	30時間	単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	アリス・ラモーナ	実務経験のある 教員科目	○:該当
科目概要	英会話は情報の伝達手段として、インターネットでも幅広く使われ、多くの場面で国際的なコミュニケーションが必要になってきます。美容業に携わる人の活躍する場所も日本ばかりではなく海外へとステージが広がり、幅広く対応できる外国語が必要になっています。日常会話から美容業に関わる接客のコミュニケーションのとり方までを習得します。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	お客様と日常会話から美容業に関わる接客のコミュニケーションのとり方までを習得が目標。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	English for Aesthetic Salons (japan language system)		
成績評価の方法 ・基準	① 日常の受講態度 ② レポート提出		
履修に当たって の留意点	授業は、一斉授業を基本に実施するが、主体的に学習してほしい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	Welcome to Our Beauty Salon	サロンあいさつ・曜日・時計・予約の仕方
第2回目	Client Consultation	再来さま用カウンセリング
第3回目	Menu Introduction	メニューの勧め方
第4回目	Receiving Calls a Salon	サロンの電話受付
第5回目	Shampooing	シャンプーした時の会話のやりとり
第6回目	Getting a Haircut	ヘアカット 会話・カットの種類
第7回目	Color My Hair	ヘアカラー 会話・色選び
第8回目	Perming	パーマ 種類・会話
第9回目	Treatment	ヘアケアアドバイス
第10回目	Finishing Your Hair Style	仕上げ・会話・ヘアスタイリング剤
第11回目	Payment Numbers	お支払・数字
第12回目	Giving Directions	道のご案内
第13回目	How to e-mail	Eメールの書き方
第14回目	Job Interview	面接 ポイントアドバイス
第15回目	Review	復習・期末テストの準備

科目名	美容マネジメント	学科名	総合・国際美容師学科
分類	必修	配当年次・学期	1後
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	神戸 祐子	実務経験のある 教員科目	○:該当
科目概要	美容マネジメントは、サロンの営業活動を記録、計算、整理する技術であり、サロンの経営成績、財政状態を明らかに報告するものである。講義内容は、サロンを前提としたお金の流れを基に仕訳、勘定記入を通じて一巡の流れを学習する。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	日本実務能力検定協会 美容会計検定試験		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	美容会計検定試験用テキスト		
成績評価の方法 ・基準	平常点・出席率等及び総合評価テストの点数を考慮し評価する。		
履修に当たって の留意点	授業は、一斉授業を基本に実施するが、主体的に学習してほしい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	美容会計の基本	美容会計の目的
第2回目	貸借対照表の役割	損益計算書の役割
第3回目	簿記一巡の流れ I ①	仕訳の基礎
第4回目	簿記一巡の流れ I ②	転記・計算表・総勘定元帳
第5回目	簿記一巡の流れ II ①	試算表の作成
第6回目	簿記一巡の流れ II ②	決算の手続き・精算表の作成
第7回目	現金・預金の処理	分記法
第8回目	その他の債権債務	債権債務
第9回目	固定資産	固定資産と減価償却
第10回目	収益と費用	収益と費用
第11回目	資本	個人企業の資本
第12回目	決算	決算整理とは
第13回目	会計	伝票会計
第14回目	特徴	サロン経営上の特徴
第15回目	検定対策	検定試験の合格へ向けた問題演習

科目名	美容実習	学科名	総合・国際美容師学科
分類	必修	配当年次・学期	1前
授業時数	240時間	単位数	8単位
授業方法	実習・講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	高柳 尚史	実務経験のある教員科目	○:該当 ○
科目概要	・ワインディング・カット・オールウェーブセッティング・シャンプーなど基礎技術を習得する。 ・美容師国家試験合格にむけての基礎実技を習得し、サロンワークテクニックに対応できる為の実践技術を学ぶ。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	厚生労働大臣認定 美容師国家資格		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	公益社団法人 理容師美容師試験研修センター 美容師実技試験 技術の解説 公益社団法人 日本理容美容教育センター 美容技術理論 1・美容技術理論2		
成績評価の方法 ・基準	美容実習の履修時間、日常の受講態度、学期末試験成績		
履修に当たって の留意点	授業は、一斉授業を基本に実施するが、主体的に学習してほしい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第8回目	①ワインディング ②カット ③シャンプー	①ワインディングウィッグカット ②シザーワーク(シザーズの取り扱い等) ③スキャルプマッサージ
第9回目～第16回目	①ワインディング ②カット ③シャンプー	①ワインディングウィッグカット ②シザーワーク(シザーズの取り扱い等) ③スキャルプマッサージ
第17回目～第24回目	①ワインディング ②カット ③シャンプー	①デザイン巻き(ブロッキング) ②シザーワーク(シザーワーク) ③ブレンディング手順
第25回目～第32回目	①ワインディング ②カット ③シャンプー	①デザイン巻き(ブロッキング) ②シザーワーク(ブレンディング) ③ブレンディング手順
第33回目～第40回目	①ワインディング ②カット ③シャンプー	①巻き方手順(上巻き、下巻き等) ②シザーワーク(ブレンディング) ③ファーストシャンプー手順
第41回目～第48回目	①ワインディング ②カット ③シャンプー	①巻き方手順(センター構成) ②シザーワーク(ブレンディング) ③ファーストシャンプー手順
第49回目～第56回目	①ワインディング ②カット ③シャンプー	①巻き方手順(フロント構成) ②シザーワーク(ブレンディング) ③セカンドシャンプー手順
第57回目～第64回目	①ワインディング ②カット ③シャンプー	①巻き方手順(右サイド・バックサイド構成) ②シザーワーク(グラデーション) ③セカンドシャンプー手順
第65回目～第72回目	①ワインディング ②カット ③オールウェーブセッティング	①巻き方手順(左サイド・バックサイド構成) ②シザーワーク(グラデーション) ③パーマ処理
第73回目～第80回目	①ワインディング ②カット ③オールウェーブセッティング	①巻き方手順(全頭構成、タイム計測) ②シザーワーク(グラデーション) ③フィンガーウェーブ
第81回目～第88回目	①ワインディング ②カット ③オールウェーブセッティング	①全頭構成、タイム計測 ②シザーワーク(グラデーション) ③フィンガーウェーブ
第89回目～第96回目	①ワインディング ②カット ③オールウェーブセッティング	①全頭構成、タイム計測 ②シザーワーク(レイヤー) ③フィンガーウェーブ
第97回目～第104回目	①ワインディング ②カット ③オールウェーブセッティング	①全頭構成、タイム計測 ②シザーワーク(レイヤー) ③カールデザイン
第105回目～第112回目	①ワインディング ②カット ③オールウェーブセッティング	①全頭構成、タイム計測 ②シザーワーク(レイヤー) ③カールデザイン
第113回目～第120回目	①ワインディング ②カット ③オールウェーブセッティング	①全頭構成、タイム計測 50分 ②シザーワーク(レイヤー) ③カールデザイン

科目名	美容実習	学科名	総合・国際美容師学科
分類	必修	配当年次・学期	1後
授業時数	240時間	単位数	8単位
授業方法	実習・講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	高柳 尚史	実務経験のある教員科目	○:該当 ○
科目概要	・ワインディング・カット・オールウェーブセッティング・シャンプーなど基礎技術を習得する。 ・美容師国家試験合格にむけての基礎実技を習得し、サロンワークテクニックに対応できる為の実践技術を学ぶ。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	厚生労働大臣認定 美容師国家資格		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	公益社団法人 理容師美容師試験研修センター 美容師実技試験 技術の解説 公益社団法人 日本理容美容教育センター 美容技術理論 1・美容技術理論2		
成績評価の方法 ・基準	美容実習の履修時間、日常の受講態度、学期末試験成績		
履修に当たって の留意点	授業は、一斉授業を基本に実施するが、主体的に学習してほしい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第8回目	①ワインディング ②カット ③オールウェーブセッティング	①全頭構成、タイム計測 40分 ②スタイルカット1 ③1段目構成
第9回目～第16回目	①ワインディング ②カット ③オールウェーブセッティング	①全頭構成、タイム計測 40分 ②スタイルカット1 ③2段目構成
第17回目～第24回目	①ワインディング ②カット ③オールウェーブセッティング	①全頭構成、タイム計測 40分 ②スタイルカット1 ③3段目構成
第25回目～第32回目	①ワインディング ②カット ③オールウェーブセッティング	①全頭構成、タイム計測 40分 ②スタイルカット2 ③4段目構成
第33回目～第40回目	①ワインディング ②カット ③オールウェーブセッティング	①全頭構成、タイム計測 35分 ②スタイルカット2 ③5段目構成
第41回目～第48回目	①ワインディング ②カット ③オールウェーブセッティング	①全頭構成、タイム計測 35分 ②スタイルカット2 ③6段目構成
第49回目～第56回目	①ワインディング ②カット ③オールウェーブセッティング	①全頭構成、タイム計測 35分 ②スタイルカット3 ③7段目構成
第57回目～第64回目	①ワインディング ②カット ③オールウェーブセッティング	①全頭構成、タイム計測 35分 ②スタイルカット3 ③全頭構成、タイム計測 50分
第65回目～第72回目	①ワインディング ②カット ③オールウェーブセッティング	①全頭構成、タイム計測 35分 ②スタイルカット3 ③全頭構成、タイム計測
第73回目～第80回目	①ワインディング ②カット ③オールウェーブセッティング	①全頭構成、タイム計測 35分 ②スタイルカット4 ③全頭構成、タイム計測
第81回目～第88回目	①ワインディング ②カット ③オールウェーブセッティング	①全頭構成、タイム計測 25分 ②スタイルカット4 ③全頭構成、タイム計測
第89回目～第96回目	①ワインディング ②カット ③オールウェーブセッティング	①全頭構成、タイム計測 25分 ②スタイルカット4 ③全頭構成、タイム計測
第97回目～第104回目	①ワインディング ②パーマスタイル ③オールウェーブセッティング	①全頭構成、タイム計測 25分 ②パーマアラカルト1 ③全頭構成、タイム計測
第105回目～第112回目	①ワインディング ②パーマスタイル ③オールウェーブセッティング	①全頭構成、タイム計測 25分 ②パーマアラカルト2 ③全頭構成、タイム計測
第113回目～第120回目	①ワインディング ②パーマスタイル ③オールウェーブセッティング	①全頭構成、タイム計測 25分 ②パーマアラカルト3 ③全頭構成、タイム計測 40分

科目名	美容実習	学科名	総合・国際美容師学科
分類	必修	配当年次・学期	2前
授業時数	240時間	単位数	8単位
授業方法	実習・講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	高柳 尚史	実務経験のある教員科目	○:該当 ○
科目概要	・ワインディング・カット・オールウェーブセッティング・シャンプーなど基礎技術を習得する。 ・美容師国家試験合格にむけての基礎実技を習得し、サロンワークテクニックに対応できる為の実践技術を学ぶ。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	厚生労働大臣認定 美容師国家資格		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	公益社団法人 理容師美容師試験研修センター 美容師実技試験 技術の解説 公益社団法人 日本理容美容教育センター 美容技術理論 1・美容技術理論2		
成績評価の方法 ・基準	美容実習の履修時間、日常の受講態度、学期末試験成績		
履修に当たって の留意点	授業は、一斉授業を基本に実施するが、主体的に学習して欲しい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第8回目	①ワインディング ②カット ③オールウェーブセッティング	①全頭構成確認 ②展開図、構成確認 ③7段構成確認
第9回目～第16回目	①ワインディング ②カット ③オールウェーブセッティング	①全頭構成確認 ②展開図、構成確認 ③7段構成確認
第17回目～第24回目	①ワインディング ②カット ③オールウェーブセッティング	①全頭構成確認 ②展開図、構成確認 ③7段構成確認
第25回目～第32回目	①ワインディング ②カット ③オールウェーブセッティング	①全頭構成、タイム計測 25分 ②カット手順1 ③全頭構成、タイム計測 40分
第33回目～第40回目	①ワインディング ②カット ③オールウェーブセッティング	①全頭構成、タイム計測 25分 ②カット手順2 ③全頭構成、タイム計測 40分
第41回目～第48回目	①ワインディング ②カット ③オールウェーブセッティング	①全頭構成、タイム計測 25分 ②カット手順3 ③全頭構成、タイム計測 40分
第49回目～第56回目	①ワインディング ②カット ③オールウェーブセッティング	①全頭構成、タイム計測 25分 ②カット手順4 ③全頭構成、タイム計測 40分
第57回目～第64回目	①ワインディング ②カット ③オールウェーブセッティング	①全頭構成、タイム計測 20分 ②カット手順5 ③全頭構成、タイム計測 30分
第65回目～第72回目	①ワインディング ②カット ③オールウェーブセッティング	①全頭構成、タイム計測 20分 ②全頭構成 タイム計測 50分 ③全頭構成、タイム計測 30分
第73回目～第80回目	①ワインディング ②カット ③オールウェーブセッティング	①全頭構成、タイム計測 20分 ②全頭構成 タイム計測 50分 ③全頭構成、タイム計測 30分
第81回目～第88回目	①ワインディング ②カット ③オールウェーブセッティング	①全頭構成、タイム計測 20分 ②全頭構成 タイム計測 40分 ③全頭構成、タイム計測 30分
第89回目～第96回目	①ワインディング ②カット ③オールウェーブセッティング	①全頭構成、タイム計測 20分 ②全頭構成 タイム計測 40分 ③全頭構成、タイム計測 25分
第97回目～第104回目	①ワインディング ②パーマスタイル ③オールウェーブセッティング	①全頭構成、タイム計測 20分 ②全頭構成 タイム計測 40分 ③全頭構成、タイム計測 25分
第105回目～第112回目	①ワインディング ②パーマスタイル ③オールウェーブセッティング	①全頭構成、タイム計測 20分 ②全頭構成 タイム計測 30分 ③全頭構成、タイム計測 25分
第113回目～第120回目	①ワインディング ②パーマスタイル ③オールウェーブセッティング	①全頭構成、タイム計測 20分 ②全頭構成 タイム計測 30分 ③全頭構成、タイム計測 25分

科目名	美容実習	学科名	総合・国際美容師学科
分類	必修	配当年次・学期	2後
授業時数	180時間	単位数	6単位
授業方法	実習・講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	高柳 尚史	実務経験のある教員科目	○:該当 ○
科目概要	・ワインディング・カット・オールウェーブセッティング・シャンプーなど基礎技術を習得する。 ・美容師国家試験合格にむけての基礎実技を習得し、サロンワークテクニックに対応できる為の実践技術を学ぶ。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	厚生労働大臣認定 美容師国家資格		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	公益社団法人 理容師美容師試験研修センター 美容師実技試験 技術の解説 公益社団法人 日本理容美容教育センター 美容技術理論 1・美容技術理論2		
成績評価の方法 ・基準	美容実習の履修時間、日常の受講態度、学期末試験成績		
履修に当たって の留意点	授業は、一斉授業を基本に実施するが、主体的に学習して欲しい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第6回目	①ワインディング ②カット ③オールウェーブセッティング	①全頭構成、タイム計測 20分 ②全頭構成 タイム計測 25分 ③全頭構成、タイム計測 25分
第7回目～第12回目	①ワインディング ②カット ③オールウェーブセッティング	①全頭構成、タイム計測 20分 ②全頭構成 タイム計測 25分 ③全頭構成、タイム計測 25分
第13回目～第18回目	①ワインディング ②カット ③オールウェーブセッティング	①全頭構成、タイム計測 20分 ②全頭構成 タイム計測 25分 ③全頭構成、タイム計測 25分
第19回目～第24回目	①ワインディング ②カット ③オールウェーブセッティング	①全頭構成、タイム計測 20分 ②全頭構成 タイム計測 25分 ③全頭構成、タイム計測 25分
第25回目～第30回目	国家試験対策①	第1課題 カットタイム18分 第2課題 ワインディングまたはオールウェーブ 衛生確認
第31回目～第36回目	国家試験対策②	第1課題 カットタイム18分 第2課題 ワインディングまたはオールウェーブ 衛生確認
第37回目～第42回目	国家試験対策③	第1課題 カットタイム18分 第2課題 ワインディングまたはオールウェーブ 衛生確認
第43回目～第48回目	国家試験対策④	第1課題 カットタイム18分 第2課題 ワインディングまたはオールウェーブ 衛生確認
第49回目～第54回目	国家試験対策⑤	第1課題 カットタイム18分 第2課題 ワインディングまたはオールウェーブ 衛生確認
第55回目～第60回目	国家試験対策⑥	第1課題 カットタイム18分 第2課題 ワインディングまたはオールウェーブ 衛生確認
第61回目～第66回目	国家試験対策⑦	第1課題 カットタイム18分 第2課題 ワインディングまたはオールウェーブ 衛生確認
第67回目～第72回目	国家試験対策⑧	第1課題 カットタイム18分 第2課題 ワインディングまたはオールウェーブ 衛生確認
第73回目～第78回目	国家試験対策⑨	第1課題 カットタイム18分 第2課題 ワインディングまたはオールウェーブ 衛生確認
第79回目～第84回目	国家試験対策⑩	第1課題 カットタイム18分 第2課題 ワインディングまたはオールウェーブ 衛生確認
第85回目～第90回目	国家試験対策⑪	第1課題 カットタイム18分 第2課題 ワインディングまたはオールウェーブ 衛生確認

科目名	国家試験対策 I (レベルアップ)	学科名	総合・国際美容師学科
分類	必修	配当年次・学期	2後
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	実習・講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	高柳 尚史	実務経験のある 教員科目	○:該当 ○
科目概要	美容師国家試験の課題(ワインディング・ヘアカットング・オールウェーブセッティング)技術を試験へ向けて習得する。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	厚生労働大臣認定 美容師国家資格		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	公益社団法人 理容師美容師試験研修センター 美容師実技試験 技術の解説 公益社団法人 日本理容美容教育センター 美容技術理論 1・美容技術理論2		
成績評価の方法 ・基準	美容実習の履修時間、日常の受講態度		
履修に当たって の留意点	授業は、一斉授業を基本に実施するが、主体的に学習してほしい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第2回目	ワインディング① オールウェーブ① カットング①	国家試験実技合格に向けた練習①
第3回目～第4回目	ワインディング① オールウェーブ① カットング①	国家試験実技合格に向けた練習②
第5回目～第6回目	ワインディング① オールウェーブ① カットング①	国家試験実技合格に向けた練習③
第7回目～第8回目	ワインディング① オールウェーブ① カットング①	国家試験実技合格に向けた練習④
第9回目～第10回目	ワインディング① オールウェーブ① カットング①	国家試験実技合格に向けた練習⑤
第11回目～第12回目	ワインディング① オールウェーブ① カットング①	国家試験実技合格に向けた練習⑥
第13回目～第14回目	ワインディング① オールウェーブ① カットング①	国家試験実技合格に向けた練習⑦
第15回目～第16回目	ワインディング① オールウェーブ① カットング①	国家試験実技合格に向けた練習⑧
第17回目～第18回目	ワインディング① オールウェーブ① カットング①	国家試験実技合格に向けた練習⑨
第19回目～第20回目	ワインディング① オールウェーブ① カットング①	国家試験実技合格に向けた練習⑩
第21回目～第22回目	筆記対策①	国家試験筆記合格に向けた練習①
第23回目～第24回目	筆記対策②	国家試験筆記合格に向けた練習②
第25回目～第26回目	筆記対策③	国家試験筆記合格に向けた練習③
第27回目～第28回目	筆記対策④	国家試験筆記合格に向けた練習④
第29回目～第30回目	筆記対策⑤	国家試験筆記合格に向けた練習⑤

科目名	職業実践	学科名	総合・国際美容師学科
分類	選択必修	配当年次・学期	1後・2前
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	実習・講義	企業等との連携	○:該当 <input type="radio"/>
担当教員		実務経験のある教員科目	○:該当
科目概要	最先端の美容技術について、インストラクターの経験をもとに具体的・実践的にわかりやすく教授してもらい、今後の各種勉強と関連性を意識し、サロン就業のモチベーションをアップさせる。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	特になし		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	オリジナルプリント		
成績評価の方法 ・基準	実習の履修時間、日常の受講態度		
履修に当たって の留意点	授業は、一斉授業を基本に実施するが、主体的に学習してほしい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	カラー実習①	カラーの概論・カウンセリング
第2回目	カラー実習②	ブロッキング・薬の調合
第3回目	カラー実習③	塗布の仕方・染毛のメカニズム
第4回目	カラー実習④	塗布練習
第5回目	アップ実習①	アップ概論・デザイン
第6回目	アップ実習②	ブロッキング・編み込みの基礎
第7回目	アップ実習③	スタイルを作る①
第8回目	アップ実習④	スタイルを作る②
第9回目	シャンプー実習①	シャンプー概論・接客(言葉、あいさつなど)
第10回目	シャンプー実習②	クロスの掛け方・プレーンリンス
第11回目	シャンプー実習③	ファーストシャンプー・セカンドシャンプー
第12回目	シャンプー実習④	スキャブルマッサージ
第13回目	セット・フォト実習①	セット概論・アップ概論
第14回目	セット・フォト実習②	ウィッグで、ヘアデザインの基礎
第15回目	セット・フォト実習③	モデルに実践のセット・写真を撮る

科目名	行事	学科名	総合・国際美容師学科
分類		配当年次・学期	1通・2通
授業時数		単位数	
授業方法		企業等との連携	○:該当
担当教員		実務経験のある教員科目	○:該当
科目概要	各種イベント・式典・ボランティア参加や研修旅行等を通して見聞を広め、職業人としての自覚とマナー・接客技術等を学び、職場での即戦力としての経験値を高める。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	特になし		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	特になし		
成績評価の方法 ・基準	出席率		
履修に当たって の留意点	特になし		

授業計画	内容
就職決起大会	就職への決意表明
就職講演会①②	社会から求められるものを学ぶ
サロンガイダンス	県内・県外からサロンの方から説明を聞く
オリエンテーション	コミュニケーション能力を高める
国内研修旅行	美容知識を学ぶ
スポーツ大会	カラダを動かし身体能力を高める
就職マナー研修	就職への心構えを学ぶ
性犯罪防止セミナー	性犯罪の怖さを学ぶ
フィールドワーク	美容の知識や最新技術を学ぶ
コンサート	芸術的感性を磨く
成人の祝い	日本の伝統を学ぶ
海外研修	見聞を広め自主性を伸ばす
歩行ラリー	個人と組織の問題解決能力を学ぶ
薬物乱用防止セミナー	薬物の怖さを学ぶ
美容研修	最新の技術と接客マナーを学ぶ

科目名	メイク(基礎)	学科名	全学科
分類	自由選択	配当年次・学期	1前・2前
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	実習・講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	八木 彬	実務経験のある 教員科目	○:該当
科目概要	検定取得を目標とし、メイクの基礎を学び、正しい知識や技術を多面的に学習する。 メイクを段階的に学習しながら、プロのメイクアップアーティストになる為の、最新の美容に重点をおく。確かなメイクアップテクニックをしっかりと身につけ、場面に応じた柔軟な対応が出来るようにする。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	JMA日本メイクアップ技術検定 2級・3級		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	JMA日本メイクアップ技術検定協会テキスト		
成績評価の方法 ・基準	出席状況、授業姿勢を総合的に判断し評価する。		
履修に当たって の留意点	授業は、一斉授業を基本に実施し、メイク講義並びに技術の習得は、メイクウィッグ・セルフメイク・相モデルでの施術を行う。練習を重ね、積極的に技術を習得して欲しい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第2回目	メイクアップ概論	メイク道具扱いについて/セッティング/添え手と声掛け フィンガーワーク/ポイントクレンジング
第3回目～第4回目	スキンケア	クレンジング/化粧水/乳液
第5回目～第6回目	ベースメイク	コントロールカラー/ファンデーション コンシーラー/フェイスパウダー
第7回目～第8回目	顔型分析と修正	顔型の分析・修正/錯覚を使用したメイク チーク/ハイライト/ローライト
第9回目～第10回目	検定対策①	JMA日本メイクアップ検定試験 3級 対策①
第11回目～第12回目	検定対策②	JMA日本メイクアップ検定試験 3級 対策②
第13回目～第14回目	質感調整	使用道具、メイク方法において変化する メイクの質感調整
第15回目～第16回目	ポイントメイク①	アイシャドウ/アイブロウ/アイライン
第17回目～第18回目	ポイントメイク②	ビューラー/マスカラ/リップ
第19回目～第20回目	ポイントメイクテクニック	イメージ別メイクテクニック 錯覚を利用したメイクテクニック
第21回目～第22回目	検定対策③	JMA日本メイクアップ検定試験 2級 対策①
第23回目～第24回目	検定対策④	JMA日本メイクアップ検定試験 2級 対策②
第25回目～第26回目	セルフメイク	自身の顔型分析/なりたいイメージ別メイク
第27回目～第28回目	作品作り	テーマ別メイクアップ
第29回目～第30回目	フォトメイク	カラーの発色や濃さ/質感/ライティングによるメイク

科目名	メイク(応用)	学科名	全学科
分類	自由選択	配当年次・学期	1後・2後
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	実習・講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	香川 英里奈	実務経験のある 教員科目	○:該当
科目概要	検定取得を目標とし、メイクの基礎を学び、正しい知識や技術を多面的に学習する。 メイクを段階的に学習しながら、プロのメイクアップアーティストになる為の、最新の美容に重点をおく。確かなメイクアップテクニックをしっかりと身につけ、場面に応じた柔軟な対応が出来るようにする。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	JMA日本メイクアップ技術検定 1級		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	JMA日本メイクアップ技術検定協会テキスト		
成績評価の方法 ・基準	出席状況、授業姿勢を総合的に判断し評価する。		
履修に当たって の留意点	授業は、一斉授業を基本に実施し、メイク講義並びに技術の習得は、メイクウィッグ・セルフメイク・相モデルでの施術を行う。練習を重ね、積極的に技術を習得して欲しい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目 ～ 第2回目	メイクアップ概論	イメージメイク理論/メイク強弱/顔型分析
第3回目 ～ 第4回目	カウンセリング	カウンセリングシート記入/メイクプランニング
第5回目 ～ 第6回目	メイク強弱①	アイメイクを強調させたメイクテクニック
第7回目 ～ 第8回目	メイク強弱②	チークを強調させたメイクテクニック
第9回目 ～ 第10回目	メイク強弱③	リップメイクを強調させたメイクテクニック
第11回目 ～ 第12回目	立体メイク	顔型分析を行い立体的にメイクを行う
第13回目 ～ 第14回目	イメージメイク①	キュートイメージメイク
第15回目 ～ 第16回目	イメージメイク②	クールイメージメイク
第17回目 ～ 第18回目	イメージメイク③	フレッシュイメージメイク
第19回目 ～ 第20回目	イメージメイク④	エレガントイメージメイク
第21回目 ～ 第22回目	検定対策	JMA日本メイクアップ検定試験 1級 対策①
第23回目 ～ 第24回目	検定対策②	JMA日本メイクアップ検定試験 1級 対策②
第25回目 ～ 第26回目	デザインメイク	デザインメイク/特殊メイク
第27回目 ～ 第28回目	作品作り①	テーマ別メイクアップ①
第29回目 ～ 第30回目	作品作り②	テーマ別メイクアップ②

科目名	エステ(基礎)	学科名	全学科
分類	自由選択	配当年次・学期	1前・2前
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	実習	企業等との連携	○:該当
担当教員	岡田 美鈴	実務経験のある 教員科目	○:該当 ○
科目概要	エステティックの本質は、人間の心にある「美しくありたい」「若々しくありたい」という欲求や願望を実現して、満足感と幸福をもたらすことです。正しい知識と理論の習得と施術を組み合わせ総合的な「おもてなし」を学ぶ		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	認定フェイシャル・ボディエステティシャン		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	美容技術理論2 オリジナルテキスト		
成績評価の方法 ・基準	出席状況、挨拶、技術を参考に総合的に評価する。		
履修に当たって の留意点	授業は、一斉授業を基本に実施し、エステ講義並び技術の習得は、ウィッグ・相モデルでの施術を行う。練習を重ね、積極的に技術を習得して欲しい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	エステティックとは	エステティシャンの心得、肌の構造・しくみ
第2回目～第3回目	施術の前に	化粧品について、準備、名称
第4回目～第5回目	基本手技①	軽擦法、強擦法、振動法、打法、圧迫法
第6回目～第7回目	フェイシャル	ポイントメイク、クレンジング
第8回目～第10回目	デコルテ	デコルテマッサージ(基礎)
第11回目～第12回目	フェイシャル①	ポイントメイク、クレンジング、洗顔
第13回目～第14回目	フェイシャル②	フェイスマッサージ(基礎)
第15回目～第16回目	フェイシャル③	ポイントメイク～フェイスマッサージ(基礎)
第17回目～第18回目	フェイシャル④	パックを含むフェイスコース
第19回目～第20回目	脱毛	毛の構造、光脱毛について
第21回目～第22回目	ボディ①	ハンドマッサージ
第23回目～第24回目	ボディ②	フットマッサージ
第25回目～第26回目	ボディ③	背中マッサージ
第27回目～第28回目	機器	高周波、イオン導入、超音波
第29回目～第30回目	フェイシャルコース(基礎)まとめ	ポイントメイク～フェイスマッサージ(基礎)・パック

科目名	エステ(応用)	学科名	全学科
分類	自由選択	配当年次・学期	1後・2後
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	実習	企業等との連携	○:該当
担当教員	岡田 美鈴	実務経験のある 教員科目	○:該当 ○
科目概要	エステティックの本質は、人間の心にある「美しくありたい」「若々しくありたい」という欲求や願望を実現して、満足感と幸福をもたらすことです。 正しい知識と理論の習得と施術を組み合わせ総合的な「おもてなし」を学ぶ。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	認定フェイシャル・ボディエステティシャン		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	美容技術理論2 オリジナルテキスト		
成績評価の方法 ・基準	出席状況、挨拶、技術を参考に総合的に評価する。		
履修に当たって の留意点	授業は、一斉授業を基本に実施し、エステ講義並び技術の習得は、ウィッグ・相モデルでの施術を行う。 練習を重ね、肌質に合った技術を習得して欲しい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目 ～ 第2回目	肌別エステ	カウンセリングの仕方
第3回目 ～ 第4回目	デコルテ①	デコルテマッサージ(応用)
第5回目 ～ 第6回目	デコルテ②	クレンジング、洗顔、デコルテマッサージ(応用)
第7回目 ～ 第8回目	フェイシャル①	クレンジング、洗顔、フェイスマッサージ(応用)
第9回目 ～ 第10回目	フェイシャル②	クレンジング、洗顔、デコルテ・フェイスマッサージ(応用)
第11回目 ～ 第12回目	ボディ①	前操作、リンパマッサージ(フット)
第13回目 ～ 第14回目	ボディ②	リンパマッサージ(背中)
第15回目 ～ 第16回目	ボディ③	リンパマッサージ(お腹・デコルテ)
第17回目 ～ 第18回目	ボディ④	リンパマッサージ(腕)
第19回目 ～ 第20回目	フェイシャル①	クレンジング～マッサージ(応用)、パック
第21回目 ～ 第22回目	フェイシャル②	肌別コース(フェイシャル)
第23回目 ～ 第24回目	機器	応用(イオン導入・高周波・超音波)
第25回目 ～ 第26回目	フェイシャルコース	カウンセリング～フェイシャルコース
第27回目 ～ 第28回目	ボディコース	リンパマッサージ(フット・背中・お腹・腕・デコルテ)
第29回目 ～ 第30回目	フェイシャル・ボディコース まとめ	カウンセリング～仕上げまで

科目名	ネイル(基礎)	学科名	全学科
分類	自由選択	配当年次・学期	1前・2前
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	実習・講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	井出 由香里	実務経験のある 教員科目	○:該当 ○
科目概要	ネイルアーティストとして必要な知識・技術を基礎から学び、ジェルネイルを中心にベーシックなサロンワークに対応できる技術を習得する。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	TBMディプロマ INFA国際ネイル試験		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	美容技術理論2 オリジナルプリント		
成績評価の方法 ・基準	課題提出等を、総合的に判断し評価する。 出席状況、授業姿勢、尚技術と美的感覚も参考にする。		
履修に当たって の留意点	授業は、一斉授業を基本に実施するが、主体的に学習してほしい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第2回目	ネイル技術理論	ネイル技術概論・ネイル技術の種類 爪のカット形状・ファイリング・シャイニング
第3回目～第4回目	爪の基礎知識	爪の構造と機能・テーブルセッティング
第5回目～第6回目	ネイルケア	甘皮ケア
第7回目～第8回目	ケアカラー	甘皮ケア・カラーリング
第9回目～第10回目	ネイルアート	カラーリング・フラットアート
第11回目～第12回目	ジェルネイルの基礎	ジェルネイルとは・クリアフローター
第13回目～第14回目	ジェルネイル①	1カラー
第15回目～第16回目	ジェルネイル②	グラデーション
第17回目～第18回目	ジェルネイル③	フレンチ
第19回目～第20回目	ジェルアート①	ペイント・ピーコック
第21回目～第22回目	ジェルアート②	マーブル
第23回目～第24回目	ジェルアート③	タイダイ
第25回目～第26回目	ジェルスカルプ①	長さだし(ポイント・オーバル)
第27回目～第28回目	ジェルスカルプ②	長さだし(ラウンド・スクエア)
第29回目～第30回目	作品作り	デザインチップ

科目名	ネイル(応用)	学科名	全学科
分類	自由選択	配当年次・学期	1後・2後
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	実習・講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	井出 由香里	実務経験のある 教員科目	○:該当 ○
科目概要	プロのネイリストとして必要な特殊な技術を学び、アクリルスカルプチュアを中心に完成・想像力を養いオリジナル性の高い作品を作れるアーティストを目指す。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	TBMディプロマ INFA国際ネイル試験		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	美容技術理論2 オリジナルプリント		
成績評価の方法 ・基準	課題提出等を、総合的に判断し評価する。 出席状況、授業姿勢、尚技術と美的感覚も参考にする。		
履修に当たって の留意点	授業は、一斉授業を基本に実施するが、主体的に学習してほしい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第2回目	アクリルスカルプチュア基礎	アクリルスカルプとは・フォームの付け方・エッジ
第3回目～第4回目	アクリルスカルプ①	クリア(ポイント・スクエア)
第5回目～第6回目	アクリルスカルプ②	グラデーション
第7回目～第8回目	アクリルスカルプ③	フレンチ(スクエア)
第9回目～第10回目	アクリルスカルプ④	フレンチ(ポイント)
第11回目～第12回目	アクリルスカルプ⑤	バーチャルフレンチ①
第13回目～第14回目	アクリルスカルプ⑥	バーチャルフレンチ②
第15回目～第16回目	アクリルスカルプ⑦	ロングスカルプ
第17回目～第18回目	3Dアート①	エンボス
第19回目～第20回目	3Dアート②	立体
第21回目～第22回目	デザインスカルプ①	エンボス埋め込み
第23回目～第24回目	デザインスカルプ②	マーブル
第25回目～第26回目	デザインスカルプ③	クラッシュガラス
第27回目～第28回目	デザインスカルプ④	ウェービング
第29回目～第30回目	作品作り	特殊ロングスカルプチュア

科目名	T&G(基礎)	学科名	全学科
分類	自由選択	配当年次・学期	1前・2前
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	実習・講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	櫻澤 哲文	実務経験のある教員科目	○:該当 ○
科目概要	教育提携しているTONI&GUYのベーシックカットカリキュラムは世界基準の技術であり、美容師として働くうえで必要なカットの基礎を学ぶ事により、即戦力として活躍できるスペシャリストを目指す。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	TONI&GUYベーシックディプロマ		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	TONI&GUYベーシックテキスト		
成績評価の方法 ・基準	受講態度及び定期試験を総合的に判断し評価する。		
履修に当たって の留意点	授業は、一斉授業を基本に実施するが、主体的に学習してほしい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第2回目	オリエンテーション 導入講義	TONI&GUYについての概要 各部の名所、スタイル解説
第3回目～第4回目	シザーワーク	様々なシザーワーク
第5回目～第6回目	ベーシックスタイル①	スタイル展開図 ワンレングスカット
第7回目～第8回目	ベーシックスタイル①	ワンレングスカット
第9回目～第10回目	ベーシックスタイル②	スタイル展開図 グラデーションカット
第11回目～第12回目	ベーシックスタイル②	グラデーションカット
第13回目～第14回目	ベーシックスタイル③	スタイル展開図 レイヤーカット
第15回目～第16回目	ベーシックスタイル③	レイヤーカット
第17回目～第18回目	サロスタイル	ショートネーブスタイル
第19回目～第20回目	ベーシック検定対策①	ワンレングスカット
第21回目～第22回目	ベーシック検定対策②	グラデーションカット
第23回目～第24回目	ベーシック検定対策③	レイヤーカット
第25回目～第26回目	サロスタイル①	サイド刈り上げ
第27回目～第28回目	サロスタイル②	セიმレイヤースタイル
第29回目～第30回目	TONI&GUY筆記検定	筆記検定

科目名	T&G(応用)	学科名	全学科
分類	自由選択	配当年次・学期	1後・2後
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	実習・講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	櫻澤 哲文	実務経験のある 教員科目	○:該当 ○
科目概要	教育提携しているTONI&GUYのベーシックカットカリキュラムは世界基準の技術であり、美容師として働くうえで必要なカットの基礎を学ぶ事により、即戦力として活躍できるスペシャリストを目指す。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	TONI&GUYベーシックディプロマ		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	TONI&GUYベーシックテキスト		
成績評価の方法 ・基準	受講態度及び定期試験を総合的に判断し評価する。		
履修に当たって の留意点	授業は、一斉授業を基本に実施するが、主体的に学習してほしい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第2回目	フューチャーファンデーション スタイル①	スクエアレイヤー①
第3回目～第4回目	フューチャーファンデーション スタイル①	スクエアレイヤー②
第5回目～第6回目	フューチャーファンデーション スタイル②	クラシックグラデーション①
第7回目～第8回目	フューチャーファンデーション スタイル②	クラシックグラデーション②
第9回目～第10回目	フューチャーファンデーション スタイル③	ベバル①
第11回目～第12回目	フューチャーファンデーション スタイル③	ベバル②
第13回目～第14回目	カラー実習①	ブリーチテクニック
第15回目～第16回目	フューチャーファンデーション スタイル④	ヴァーティカルグラデーション①
第17回目～第18回目	フューチャーファンデーション スタイル④	ヴァーティカルグラデーション②
第19回目～第20回目	カラー実習②	ウィービングテクニック
第21回目～第22回目	ベーシック検定対策①	ワンリングス・グラデーション①
第23回目～第24回目	ベーシック検定①	ワンリングス・グラデーション②
第25回目～第26回目	ベーシック検定対策②	レイヤー①
第27回目～第28回目	ベーシック検定対策③	レイヤー②
第29回目～第30回目	ベーシック検定②	レイヤー③

科目名	着付け(基礎)	学科名	全学科
分類	自由選択	配当年次・学期	1前・2前
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	実習・講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	山口 則子	実務経験のある 教員科目	○:該当
科目概要	着物に関する歴史、素材、関連する小物やその取扱い、冠婚葬祭のマナーなど、基礎的な知識を学習する。実際に着付けを行うと共に、和装時の身のこなし、お辞儀の仕方、自己紹介の仕方等、美しい立居振る舞いを実習する。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	着付け技術修了証		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	美容技術理論2 オリジナルテキスト		
成績評価の方法 ・基準	①実習の履修時間 ②学習への取組状況、技術の取得		
履修に当たって の留意点	実習が主体となるため、学修への取組状況を重視します。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第2回目	着物の理論	美容技術理論Ⅱ・着付けの目的 一般常識
第3回目～第4回目	着付け技術	浴衣について・着付け用小物類
第5回目～第6回目	浴衣の着付け①	自装・浴衣の着付け 紐の取り扱い方
第7回目～第8回目	浴衣の着付け②	タオル補整の仕方 おはしよりの始末
第9回目～第10回目	浴衣の着付け③	半幅帯の基本的結び方
第11回目～第12回目	浴衣の着付け④	自装の仕上げ
第13回目～第14回目	相着せの技術	相モデル着付け技術・半幅帯の変わり結び①
第15回目～第16回目	着せの技術	相モデル着付け技術・半幅帯の変わり結び②
第17回目～第18回目	男性用浴衣着付①	男性用きもの理論・着付け技術
第19回目～第20回目	男性用浴衣着付②	角帯の結び方
第21回目～第22回目	浴衣着付け総合	技術仕上げ
第23回目～第24回目	きもの基本着付け	きもの理論・種類について
第25回目～第26回目	きもの基本着付け方	基本の着付け方・補整の重要性
第27回目～第28回目	浴衣着付け総合	実技確認
第29回目～第30回目	技術確認	着付け技術資格認定試験

科目名	着付け(応用)	学科名	全学科
分類	自由選択	配当年次・学期	1後・2後
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	実習・講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	山口 則子	実務経験のある 教員科目	○:該当
科目概要	きものは、世界に誇る民族衣装であり、その素材から着付け、立ち居振舞いに至るまで、長い歴史に育まれた世界に誇れる日本の文化です。講義、実習を通じ、きもの持つ内面の奥深さと和のマナーを会得することにより、世界に通用する日本人女性としての品格を備えることを目的とする。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	着付け技術修了証		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	美容技術理論2 オリジナルテキスト		
成績評価の方法 ・基準	①実習の履修時間 ②学習への取組状況、技術の取得		
履修に当たって の留意点	実習が主体となるため、学修への取組状況を重視します。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第2回目	着物技術理論	美容技術理論Ⅱ・礼装について
第3回目～第4回目	きもの基本着付け技術①	自装技術・補助用小物の取り扱い
第5回目～第6回目	きもの基本着付け技術②	自装技術・小紋のきもの着装方法①
第7回目～第8回目	きもの基本着付け技術③	自装技術・小紋のきもの着装方法②
第9回目～第10回目	きもの基本着付け技術④	自装技術・帯結び(太鼓結び)①
第11回目～第12回目	きもの基本着付け技術⑤	自装技術・帯結び(太鼓結び)②
第13回目～第14回目	礼装きもの着付け①	装用留袖着付け(補正の仕方)
第15回目～第16回目	礼装きもの着付け②	礼装用留袖着付け(おはしよりの処理法)
第17回目～第18回目	礼装きもの着付け③	袋帯の説明・結び方(二重太鼓)
第19回目～第20回目	礼装きもの着付け④	礼装用留袖着付け仕上げ
第21回目～第22回目	女性用袴の着付け①	着物の着付け方
第23回目～第24回目	女性用袴の着付け②	半幅帯の結び方
第25回目～第26回目	女性用袴技術確認	袴の着付け方・技術認定
第27回目～第28回目	技術確認①	留袖着装技術確認
第29回目～第30回目	技術確認②	着付け技術資格認定試験

科目名	まつげエクステ	学科名	全学科
分類	自由選択	配当年次・学期	1後・2後
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	実習・講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	秋山 美絵	実務経験のある 教員科目	○:該当
科目概要	公衆衛生学や伝染病を基礎として眼及びまつげなどの眼付属器官を理解し、まつげエクステンションの施術に係る技術の理論・施術に係る説明を学習する。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	松風公認インストラクター試験		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	Eyelash Extensions In-Class Training Courses		
成績評価の方法 ・基準	平常点・出席率等及び総合評価テストの点数を考慮し評価する。		
履修に当たって の留意点	授業は、一斉授業を基本に実施し、マツエク講義並びに技術の習得は、マツエクウィッグでの施術を行う。練習を重ね、積極的に技術を習得して欲しい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第2回目	まつげエクステ入門 衛生学	消毒・ワゴンセッティング
第3回目～第4回目	商材学①(グルー以外)	施術に使用する道具解説 ツィーザーワーク①(かき分け練習)
第5回目～第6回目	商材学①(グルー以外)	施術に使用する道具解説 ツィーザーワーク②(装着)テーブワーク(ウィッグ)
第7回目～第8回目	生理学・病理学	眼及びまつ毛などの眼付属器官の構造及び機能 装着レッスン(ウィッグ)
第9回目～第10回目	商材学②(グルー)	グルー機能、成分、原理、特性等解説 装着リムーブ(ウィッグ)
第11回目～第12回目	装着レッスン	テーブワーク(モデル)(実習)
第13回目～第14回目	病理学	テーブワーク等眼疾患、眼周囲皮膚疾患発生機予防法 角膜炎・結膜炎等眼病
第15回目～第16回目	装着レッスン(デザイン) ウィッグ①	ナチュラル
第17回目～第18回目	装着レッスン(デザイン) ウィッグ②	キュート
第19回目～第20回目	装着レッスン(デザイン) ウィッグ③	エレガンス
第21回目～第22回目	作品作り	カラーエクステを使い作品作り①
第23回目～第24回目	作品作り・写真撮影	カラーエクステを使い作品作り②・写真撮影
第25回目～第26回目	検定対策①	検定合格へ向けた問題演習①
第27回目～第28回目	検定対策②	検定合格へ向けた問題演習②
第29回目～第30回目	検定対策③	検定合格へ向けた問題演習③

科目名	ヘアデザイン	学科名	全学科
分類	自由選択	配当年次・学期	1前・2前
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	実習・講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	坂本 智美	実務経験のある 教員科目	○:該当
科目概要	個性的な美を学び、想像力を養い、感性を育成し、総合的な最高の技術を引き出す。 ヘアデザインは舞台、ファッション界、ブライダル、一般分野に至るまで個性あるヘアコーディネーターとして活躍できる人材を育成する。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	アップスタイルの基本ベースから、数種類のアップスタイルを作ること。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	アップスタイルに必要な道具一式		
成績評価の方法 ・基準	出席状況、受講態度、挨拶や技術と想像力、美的感覚も参考にする。		
履修に当たって の留意点	授業は、一斉授業を基本に実施するが、主体的に学習してほしい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	セッティング ピンニング	道具のセッティング方法 ピンの打ち方
第2回目	ヘアゴムの縛り方 編み方	ゴムの縛り方 編み方 各種
第3回目	編み込み①	編み込み 各種①
第4回目	編み込み②	編み込み 各種②
第5回目	編み込み③	編み込み 各種③
第6回目	まとめ髪①	アップスタイル①
第7回目	まとめ髪②	アップスタイル②
第8回目	巻き髪①	コテ・アイロンの使い方
第9回目	巻き髪②	巻き髪 各種
第10回目	巻き髪③	ホットカーラーの使い方
第11回目	すき毛①	すき毛の使い方
第12回目	すき毛②	すき毛を使ったスタイル
第13回目	スタイル①	課題 スタイル作り①
第14回目	スタイル②	課題 スタイル作り②
第15回目	スタイル③	課題 スタイル作り③

科目名	国家試験対策Ⅱ	学科名	国際・総合美容師学科
分類	自由選択	配当年次・学期	2後
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	実習・講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	高柳 尚史	実務経験のある教員科目	○:該当 ○
科目概要	美容師国家試験の課題(ワインディング・ヘアカットイング・オールウェーブセッティング)技術を試験へ向けて解りやすく解説を作り、繰り返し復習をして習得する。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	厚生労働大臣認定 美容師国家資格		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	美容師実技試験 技術の解説 美容技術理論 1・2		
成績評価の方法 ・基準	実習の履修時間、日常の受講態度		
履修に当たって の留意点	授業は、一斉授業を基本に実施するが、主体的に学習してほしい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第2回目	ワインディング① オールウェーブ① カットイング①	国家試験実技合格に向けた解説・復習①
第3回目～第4回目	ワインディング② オールウェーブ② カットイング②	国家試験実技合格に向けた解説・復習②
第5回目～第6回目	ワインディング③ オールウェーブ③ カットイング③	国家試験実技合格に向けた解説・復習③
第7回目～第8回目	ワインディング④ オールウェーブ④ カットイング④	国家試験実技合格に向けた解説・復習④
第9回目～第10回目	ワインディング⑤ オールウェーブ⑤ カットイング⑤	国家試験実技合格に向けた解説・復習⑤
第11回目～第12回目	ワインディング⑥ オールウェーブ⑥ カットイング⑥	国家試験実技合格に向けた解説・復習⑥
第13回目～第14回目	ワインディング⑦ オールウェーブ⑦ カットイング⑦	国家試験実技合格に向けた解説・復習⑦
第15回目～第16回目	ワインディング⑧ オールウェーブ⑧ カットイング⑧	国家試験実技合格に向けた解説・復習⑧
第17回目～第18回目	ワインディング⑨ オールウェーブ⑨ カットイング⑨	国家試験実技合格に向けた解説・復習⑨
第19回目～第20回目	ワインディング⑩ オールウェーブ⑩ カットイング⑩	国家試験実技合格に向けた解説・復習⑩
第21回目～第22回目	筆記対策①	国家試験筆記合格に向けた解説・練習①
第23回目～第24回目	筆記対策②	国家試験筆記合格に向けた解説・練習②
第25回目～第26回目	筆記対策③	国家試験筆記合格に向けた解説・練習③
第27回目～第28回目	筆記対策④	国家試験筆記合格に向けた解説・練習④
第29回目～第30回目	筆記対策⑤	国家試験筆記合格に向けた解説・練習①

科目名	色彩	学科名	全学科
分類	自由選択	配当年次・学期	1前・2前
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	原崎 房代	実務経験のある 教員科目	○:該当
科目概要	<p>日常生活の中で色彩は重要な役割を持っている。色彩を感じ、意図した通りの効果のあるカラーコーディネーションを行うためには、色の性質を知り、本質を理解する必要がある。 授業は用語解説、検定対策問題を解きながら同時に、カラーカードを使って実習し、色彩の基礎的な事柄を習得する。色への興味を深くし、色彩のプロを目指す。</p>		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	文部科学省後援 色彩検定 1級・2級・3級		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	文部科学省後援 色彩検定テキスト 文部科学省後援 問題集 色票		
成績評価の方法 ・基準	受講態度及び定期試験、提出物等を、総合的に判断し評価する。		
履修に当たって の留意点	授業は、一斉授業を基本に実施するが、主体的に学習してほしい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	色のはたらき①	色票を完成させる
第2回目	色のはたらき②	光の性質と色
第3回目	眼のしくみ	色を見る眼のしくみ 網膜における光の処理
第4回目	照明	照明の種類と特徴 照明と色の見え方
第5回目	混色	加法混色 減法混色 混色を応用した身近な例
第6回目	色の分類と三属性	色の三属性 「純色」「清色」「中間色」 色立体 表色系
第7回目	PCCS 三属性	色相 明度 彩度 三属性による色の表示 等色相面
第8回目	PCCS トーン	トーンのイメージ 色相とトーンによる色の表示方法
第9回目	色の心理的効果	暖色と寒色 進出色と後退色 膨張色と収縮色 柔らかい色と硬い色 軽い色と重い色 興奮する色と沈静する色
第10回目	色の視覚効果	負の残像 色対比 同化効果 色陰現象 面積効果
第11回目	色の知覚的効果	色の錯視 色相から配色を考える
第12回目	色彩調和	トーンから配色を考える 配色の基本的な技法①
第13回目	色彩と生活	トーンから配色を考える 配色の基本的な技法②
第14回目	ファッションと色彩	ファッション概論 ファッションビジネスの世界 ファッションタイプとカラーコーディネーション
第15回目	インテリアと色彩 インテリアのカラー コーディネーション	住宅インテリアの色彩 インテリアの配色 インテリアにおける色の心理的効果 インテリアにおける色彩検討

科目名	デッサン	学科名	全学科
分類	自由選択	配当年次・学期	1前・2前
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	マッテオ	実務経験のある教員科目	○:該当
科目概要	<p>絵画、造形の基礎であるデッサンを身につける。あらゆるデザインの基本となる表現技法と構成力を演習により習得する。底した課題演習により表現力を高める。 まず形状、量感、質感、空間を捉えること、ついで細やかな表現力と構図の取り方を身に付ける。創造的表現のフローをつかませたい。</p>		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	<p>学園祭の人物画デッサン、イメージを的確に伝えられるデッサンが描ける。</p>		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	<p>デッサンブック</p>		
成績評価の方法 ・基準	<p>各課題提出による採点を中心に、授業出席率・受講態度を総合的に判断し評価する。</p>		
履修に当たって の留意点	<p>授業は、一斉授業を基本に実施するが、主体的に学習してほしい。</p>		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	道具に関する知識	鉛筆 擦筆 毛筆 消しゴム 練りゴム コンテ ボールペン スケッチブック①
第2回目	道具・用具の使い方	鉛筆 擦筆 毛筆 消しゴム 練りゴム コンテ ボールペン スケッチブック②
第3回目	鉛筆によるデッサン①	鉛筆のグレーのみでのデッサン①
第4回目	鉛筆によるデッサン②	鉛筆のグレーのみでのデッサン②
第5回目	平面と立体のバランス①	陰影の作り方①
第6回目	平面と立体のバランス②	陰影の作り方②
第7回目	形状、量感、質感の表現①	直線・曲線 濃い・薄い 厚い・薄いを平面上で表現する方法①
第8回目	形状、量感、質感の表現②	直線・曲線 濃い・薄い 厚い・薄いを平面上で表現する方法②
第9回目	陰影による描写①	図と地のバランス①
第10回目	陰影による描写②	図と地のバランス②
第11回目	輪郭による線の描写①	太い線・細い線を使い分け、輪郭に陰影をつける①
第12回目	輪郭による線の描写②	太い線・細い線を使い分け、輪郭に陰影をつける②
第13回目	写実表現①	テキストを見ながらデッサンを描く①
第14回目	写実表現②	テキストを見ながらデッサンを描く②
第15回目	写実表現③	テキストを見ながらデッサンを描く③

科目名	ヘアケアマイスター	学科名	全学科
分類	自由選択	配当年次・学期	1後・2後
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	森村 健	実務経験のある教員科目	○:該当
科目概要	お客様にきちんとした説明することで、不安を安心に替える為に①現状説明②技術説明③お手入れ説明。これから美容師として働く学生が知っておきたいヘアケアの知識、毛髪診断が正しくでき、それに対する処理・アドバイスの的確に出来る人材を育成することを目的とする。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	ヘアケアマイスター検定(プライマリー)合格		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	一般社団法人 日本ヘアケアマイスター協会 ヘアケアマイスターブック		
成績評価の方法 ・基準	平常点・出席率等及び総合評価テストの点数を考慮し評価する。		
履修に当たって の留意点	授業は、一斉授業を基本に実施するが、主体的に学習してほしい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	毛髪科学①	毛髪の構造と働き①②③
第2回目	毛髪科学②	毛髪の構造と働き④⑤⑥⑦ タンパク質とは
第3回目	毛髪科学③	毛髪の4つの結合①② 毛髪のダメージの原因とプロセス
第4回目	毛髪のカウンセリング①	1カウンセリング 2お客様の悩み 3毛髪の現状 4髪質を見極め(特徴・性質)
第5回目	毛髪のカウンセリング②	5くせ毛 6施術時間 7ダメージレベル 8処理の目的 9毛髪状態 10毛髪データ
第6回目	ヘアケア剤①	1界面活性剤について 2シャンプー剤の成分と働き・効果
第7回目	ヘアケア剤②	3トリートメント剤の成分と働き・効果 4スタイリング剤の細分と働き・効果
第8回目	第1章(まとめ)	毛髪科学(復習と確認)
第9回目	第2章(まとめ)	毛髪のカウンセリング(復習と確認)
第10回目	第3章(まとめ)	ヘアケア剤(復習と確認)
第11回目	検定対策①	検定合格へ向けた問題演習①
第12回目	検定対策②	検定合格へ向けた問題演習②
第13回目	検定対策③	検定合格へ向けた問題演習③
第14回目	検定対策④	検定合格へ向けた問題演習④
第15回目	検定対策⑤	検定合格へ向けた問題演習⑤

科目名	ウェディング	学科名	全学科
分類	自由選択	配当年次・学期	1後・2後
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	原崎 房代	実務経験のある教員科目	○:該当
科目概要	<p>ブライダルプロデュースに関わる役割や結婚式を創り上げるための様々なノウハウを学習することにより、ブライダルシーンを創造する能力を身に付ける。授業は、用語解説、検定対策問題を解きながら同時に、ウェディングプランナーの基礎的な事柄を習得する。 ブライダルへの興味を深くし、業界のニーズに応えられるプロを目指す。</p>		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	AWP アシスタント・ウェディングプランナー検定		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	ウェディングプランナーテキスト		
成績評価の方法 ・基準	受講態度及び定期試験、提出物等を、総合的に判断し評価する。		
履修に当たって の留意点	授業は、一斉授業を基本に実施するが、主体的に学習してほしい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	ヒューマン概論	人と人の出会い 日本国憲法 国民の祝日
第2回目	歴史概論	ブライダルの歴史
第3回目	言語概論	言葉のちから 敬意ある会話
第4回目	プレゼンテーション	魅力の伝え方
第5回目	接客概論	ロールプレイング
第6回目	実務概論	婚礼申込時に必要な書類 ホスピタリティ 挙式・披露宴の流れ
第7回目	テーブルプラン	スケジュール作成
第8回目	クリエイティブ概論 広告・企画概論	アドヴァタイジング ブライダルパッケージ
第9回目	経済概論	マーケットの把握 婚礼ビジネス
第10回目	飲食概論	テーブルコーディネート ウェディングケーキ
第11回目	ブライダルパートナー	パートナー企業のネットワーク フラワービジネス
第12回目	ブライダルにおける花の役割	会場装花 ブーケスタイル 幸せのジンクス
第13回目	婚礼衣装 和装・洋装	ヘアメイク&エステ 婚約・結婚指輪 熨斗と水引
第14回目	法令概論	飲食に関連する基礎知識 飲酒運転 反社会勢力
第15回目	検定対策	過去問

科目名	PC	学科名	全学科
分類	自由選択	配当年次・学期	1前・2前
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	森村 健	実務経験のある教員科目	○:該当
科目概要	最も使用されているMicrosoft社のoffice(アプリケーションソフト)のWord(ワード)、Excel(エクセル)、Power Point(パワーポイント)の基礎を学び、応用としてオリジナルの名刺作成から画像加工であるフォトレタッチのスキル修得を目指す。また、動画編集などの基礎を理解しオリジナルPV作成や出力の知識を学ぶ。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	特になし		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	実教出版株式会社 30時間でマスター Office 2010		
成績評価の方法 ・基準	平常点・出席率等及びUSB提出を考慮し評価する。		
履修に当たって の留意点	授業は、一斉授業を基本に実施するが、主体的に学習してほしい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	Windows基本動作	PCの基本操作・ファイル操作 USBの使い方・タイピングソフト
第2回目	Word2010①	ワード基礎と入力 ビジネス文書の作成①
第3回目	Word2010②	ワード基礎と入力 ビジネス文書の作成②
第4回目	Word2010③	ワード基礎と入力 ビジネス文書の作成③
第5回目	office① 名刺作成	フォトレタッチ 名刺の作成
第6回目	office② 名刺作成	フォトレタッチ 名刺の作成
第7回目	Excel2010①	エクセル基本操作と入力 表計算と計算式①
第8回目	Excel2010①	エクセル基本操作と入力 表計算と計算式②
第9回目	Excel2010②	エクセル基本操作と入力 表計算と計算式③
第10回目	Power Point2010①	パワーポイントの基本操作① 例題チャレンジ
第11回目	Power Point2010②	パワーポイントの基本操作② 例題チャレンジ
第12回目	Power Point2010③	パワーポイントの基本操作③ 例題チャレンジ
第13回目	動画編集①	PV作成① 動画・画像の素材集め
第14回目	動画編集②	PV作成② 音楽・配置・トランジション
第15回目	動画編集③	PV作成③ 完成・アンケート

科目名	フォト	学科名	全学科
分類	自由選択	配当年次・学期	1後・2後
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	実習・講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	八木 彬	実務経験のある 教員科目	○:該当
科目概要	一眼レフの構造、仕様を学び撮影技術を身に着ける。 また、撮影から学ぶことができる色彩感覚等を磨く事で美容技術を同時に学ぶ。 応用として、ポートレート写真のライティングパターンを身に着ける。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	特になし		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	特になし		
成績評価の方法 ・基準	出席率及び授業態度を考慮し評価する。		
履修に当たって の留意点	授業は、一斉授業を基本に実施するが、主体的に学習してほしい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	一眼レフ基本動作①	カメラの持ち方・各種設定
第2回目	一眼レフ基本動作②	視度調整・シャッタースピード・ISO感度・被写界深度
第3回目	一眼レフ基本動作③	復習・WB設定・焦点距離と遠近法
第4回目	一眼レフ基本動作④	構図の考え方とバリエーション
第5回目	物撮り	物撮りにより各種設定の理解度増加を図る
第6回目	一眼レフ応用動作	各種設定の応用操作
第7回目	ポートレート①	物撮りとポートレートの違いを知る
第8回目	ポートレート②	ポートレート撮影(白とび・構図・ピントチェック)
第9回目	ライティング①	自然光でのライティング・室内撮影時のカメラのみのライティング
第10回目	ライティング②	スタジオ撮影でのライティング
第11回目	ポートレート③	ポートレート撮影(望遠・広角の使い分け)
第12回目	ポートレート④	ポートレート撮影(作品撮り)
第13回目	ポートフォリオ①	撮影の反省とポートフォリオ作成
第14回目	ポートレート⑤	ポートレート撮影(作品撮り)
第15回目	ポートフォリオ②	ポートフォリオ作成